特定非営利活動法人 GNC Japan
http://www.kyouzon-gnc.com

２０１２年度

ＧＮＣ活動報告

平成２５年３月

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

ハワリンバヤル２０１２

5 月 4 日、5 日　練馬区光が丘公園にて、モンゴルの春祭り、「ハワリンバヤル 2012」が開催され、GNC　Japan は、例年同様に出展しました。前年は震災の影響で中止となったハワリンバヤルでしたが、今回はその分盛大でした。初日は、残念ながら雨。しかし 2 日目は晴天となり、たくさんの来場者が訪れました。

スタッフも総出で参加。遠く、名古屋から応援に駆けつけてくださった方。初めて GNC スタッフとしてイベントに参加してくださった方。GNC のブースにも、モンゴルに興味のあるたくさんの方々が来てくださいました。

第１１回ＮＧＯ合同研究＆報告会

６月１０日（日）１４：００～１７：００　法政大学地域研究センター台東サテライトオフィス

発表者：宮木 いっぺい氏（特定非営利活動法人　ＧＮＣ　Ｊａｐａｎ代表理事）

（テーマ）ＮＧＯにとって「人づくり」とは何か

「一緒に学ぶことを通じて一緒に課題を発見し、分析し、解決策を導き出す」、これが今の GNC の活動です。具体的には、人づくり、森づくり、緑あふれるまちづくり、苗畑づくり、農場づくりを行っています。その中で、今回は「人づくり」について、これまでの活

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

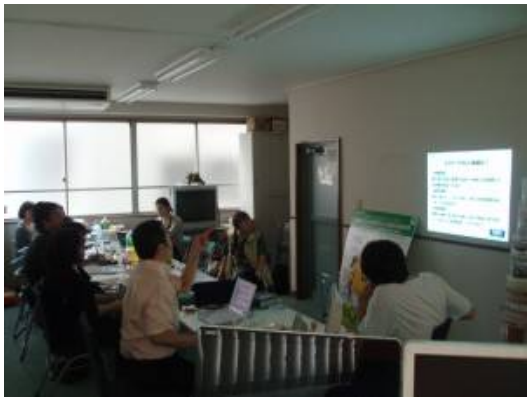
動を振り返りつつＧＮＣの基本的な考え方をお話し、今後の活動の展望について意見交換し皆様のお知恵を拝借できればと考えています。

発表者：原　鋭次郎氏（一般社団法人　地球緑化クラブ代表理事）

（テーマ）砂漠地帯における産業の実現化に向けて

団体設立当初から植林を中心とした砂漠緑化事業を行ってまいりました。同時に、砂漠緑化には新たな産業を絡めた村おこしも必要であると考え、あらゆる実験も行ってまいりました。

クブチ砂漠と旗下営での緑化事業が概ね終了したのを機に、新たな取り組みをスタートしようと考えております。各地の事業報告と共に、村おこしを兼ねた新たな活動に向けての考えを発表させていただきます。中国、国内での緑化活動の報告と共に新たな事業に向けた内容を発表。E-mail:office@ryokukaclub.com　http://www.ryokukaclub.com



発表者：尾上崇氏（ＧＮＣ　Ｊａｐａｎ　森林再生担当）

（テーマ）林野火災の対策

ＧＮＣはモンゴル国セレンゲ県北部で毎年植林を行っていますが、２００９年春季の林野火災により２００７年～２００８年にかけて植林した場所もその被害に遭いました。この地域の林野火災に対する既存の対策が十分ではないことが明らかになり、今後は、植林だけではなく、火災対策を充実させる方針です。今春の現地の状況と、対策の方法について発表。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

３時間にわたる各団体の活動報告＆質疑応答の後は懇親会です。

モンゴルエコツアー

2012 年GNC モンゴルエコツアー（９ 月8 日～９ 月15 日）報告

１　トーラ村視察

【日時】2012 年9 月9 日13：00～15：00
【場所】ウランバートル市ハンオール地区トーラ村
【スタッフ】GNC Japan 代表宮木いっぺい・GNC Japan 事務局矢野明子
GNC Japan ネットワーク部荻原洋子・GNC Japan 教育センター長ツグトサイハン
【参加者】一橋大学大学院木村奈津子・一橋大学大学院トゥギー

１）緑あふれるまちづくり
・村民と意見交換
①アユールブーネさんトーラ村670 世帯のうち220 世帯の地区長。一昨年GNC が提供した苗木は順調に育っている。今後は、家を囲むようにニレを植えることを希望。家に招待し

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

ていただき、スーテーツァイと手作りディルピクルスをごちそうになる。
②バダームハンドさん（妹） MIAT の元整備士。庭は美しくやる気に満ちていた。家に招待していただき、パン、エイツキ、チーズなどをごちそうになる。良い歌声も披露してくれた。地下温室を建てることを提案している。

③ニャムダーシさん熱心だったがあまりうまくいっていなかった。
水を井戸から運ぶことは重労働で一番の問題点だが、やる気さえあればアユールブーネさんやバダームハンドさんのようにその問題をクリアして成果をあげているのも事実である。自発的なやる気を成功事例を示すことで喚起することが重要であろう。トーラ村とのコラボを今後どうするか（フィールドスタディ、フェアトレードなど）が今後の課題である。

２ GNC モデル農場視察

【日時】2012 年9 月9 日15：00～17：00
【場所】ウランバートル市ハンオール地区トーラ村
【スタッフ】GNC Japan 代表宮木いっぺい・GNC Japan 事務局矢野明子
GNC Japan ネットワーク部荻原洋子・GNC Japan 教育センター長ツグトサイハン
【参加者】一橋大学大学院木村奈津子・一橋大学大学院トゥギー

１）農場づくり
・ツォゴさんによる農場案内

1 キロに渡る点滴システムを導入したことで、6 月に防風林として植えた2000 本のニレは

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

順調に育っている。これらは、2,5 ヘクタールの畑を取り囲んでいる。一昨年植えたものは家畜被害にあったものも多いが、残ったニレは大きく育っている。今後はニレの防風林、およびニレを中心に苗畑を充実させようとしている。建造中の日光温室も見学した。これが完成すれば冬が長いモンゴルで野菜栽培期間を伸ばすことができる。その後、ツォゴさんの工房と作業部屋を見学。日本で使えなくなった中古品を再生させている。ツォゴさんは将来、子供たちに機械について教える場を設けたいと考えている。

２）人づくり

・ＧＮＣ 教育センター設立

農場内に既にある研修・宿泊施設をより一層充実させ（名称は、GNC 教育センター）、今後はGNCの人づくり事業（フィールドスタディを含め）の拠点とする。センター長は、ツグトサイハンさん。

３ バヤンチャンドマン村視察

【日時】2012 年9 月10 日10：30～16：00

【場所】トゥブ県バヤンチャンドマン村

【スタッフ】GNC Japan 代表宮木いっぺい・GNC Japan 事務局矢野明子

GNC Japan ネットワーク部荻原洋子・GNC Japan 教育センター長ツグトサイハン

GNC Mongolia バヤンチャンドマン村担当スタッフバトゾリグ

【参加者】一橋大学大学院木村奈津子・一橋大学大学院トゥギー

滋賀大学ドゥルグーン・東京大学ウンダーク・東北大学ツェンゲル

１）苗畑づくり

・苗畑視察（10：30～11：20）

GNC Mongolia の苗畑を視察し、担当者のバドゾリグさんに、現状と解決すべき問題点、今後の展望について説明してもらった。トラクターの購入により効率性は増したが、競合する苗木会社が増えており、より一層市場ニーズにあった質の高い苗木を育てる必要がある。バトゾリグさんは、観葉植物、果樹、芝生づくり等を検討している。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

２）緑あふれるまちづくり

・村民と意見交換（11：20～12：30）

2010 年～12 年に緑化支援を行った3 軒を訪ねた。チュルーンバートさん、バドムハンドさん、ゾールさんの家である。担当スタッフのバトゾリグさんの指導のもと、毎年10 軒ずつ、通算30 軒がGNC が提供した苗木（サージ、ニレ、ポプラなど）を育てた。この取組は今後も継続する。

・道路沿いの緑地帯の視察（12：30～13：00）

昨年完成した道路沿いの緑地帯を視察。村の人々がその完成を記念して石碑（刻まれている言葉：緑の環境をこわさずに愛しながら支えて生きよう。GNC Japan と村の人々が協力してつくりました）を建ててくれていた。また喜ぶべきことに、この緑地帯を村人自ら拡張する工事をはじめていた。

３）森づくり

・バヤンチャンドマン村郊外の植林地視察（14：50～16：00）

バヤンチャンドマン村郊外の植林地を視察した。ここは斜面なので1000 本単位で確実に植林することが効果的である。

４）人づくり

現在予定している学生参加のフィールドスタディツアーの新しい拠点として、バヤンチャンドマン村のGNC 苗畑内に、研修・宿泊用のゲルを準備することを決定した。

４ セレンゲ県県庁訪問

【日時】2012 年9 月11 日9：20～12：20

【場所】セレンゲ県スフバートル市

【スタッフ】GNC Japan 代表宮木いっぺい・GNC Japan 事務局矢野明子

GNC Japan ネットワーク部荻原洋子・GNC Japan 教育センター長ツグトサイハン

GNC Mongolia バヤンチャンドマン村担当スタッフバトゾリグ

【参加者】一橋大学大学院木村奈津子・一橋大学大学院トゥギー

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

滋賀大学ドゥルグーン・東京大学ウンダーク・東北大学ツェンゲル

１）森づくり

自然環境局の森林課長ツェンゲルザヤさん、および、セレンゲ県事務総長（副知事にあたる）スヴダさんと今後のGNC のセレンゲ県における植林計画について話し合った。具体的には、植林する場所、本数を決定するためのスキームづくりを行い、それにもとづき契約を取り交わした。また、森林火災を防止するためのシステムづくりも協力して行うことを約束した。現在、森林火災の危険性に対する認知度が地元民の間で低いということなので、GNC としては、認知度をアップさせるためのチラシづくりを県庁と協力して行うことを決めた。なお、今後GNC のために1 か所広いエリアに植林できるように便宜をはかることを約束してくれた。飛び飛びの場所に植林することの非効率を避け、植林後の成果を広く知らせてゆくためである。

また、苗木会社は県内に32 社あり毎年2200 万本供給する能力があるが、マーケットが無く、しかも中国から安い苗木は入ってきているので、どこも経営上の問題を抱えている。そこで、現在は国が買い上げるという計画も持ち上がっている。なお、今回は2 社の苗畑を実際に視察した。

２）人づくり

現在、GNC が計画している学生参加のフィールドスタディツアーについては、セレンゲ県として全面的に協力することが可能であるとのことである。また、新しいプロジェクトとして、県内の幼稚園（60 か所）に森づくりの大切さを知らせるGNC オリジナル絵本「アカマツの赤ちゃんの夢」を配布し、子供たちが絵本の内容を表現した劇や踊りなどを発表するイベントを開催することとなった。

また、自然環境観光省付属トジンナルス環境保護区管理局を訪ね、現在12 歳から16 歳の子供を対象に実施されている充実した環境教育プログラムの内容の詳細について説明を受けた。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

５ セレンゲ県植林地視察

【日時】2012 年9 月11 日17：00～19：30

【場所】セレンゲ県トジンナルス他

【参加スタッフ】GNC Japan 代表宮木いっぺい・GNC Japan 事務局矢野明子

GNC Japan ネットワーク部荻原洋子・GNC Japan 教育センター長ツグトサイハン

GNC Mongolia バヤンチャンドマン村担当スタッフバトゾリグ

【参加者】一橋大学大学院木村奈津子・一橋大学大学院トゥギー・滋賀大学ドゥルグーン

東京大学ウンダーク・東北大学ツェンゲル

１）森づくり

・2004 年春・秋、2010 年植林地視察

セレンゲ県における最初の植林地（トジンナルス・2004 年春植林）を森林・動物センター長のジャムスランさんの案内で視察した。活着率は良く、成長も順調である。既に3 メートル近く育ったアカマツもあり、松かさが出来ているものも見られ感激した。2005 年愛・地球博のプレイベントの際の植林地（2004 年秋植林）、および2010 年の植林地を続けて視察した。2004 年春GNＣはじめての植林地 2010 年植林地、2005 年愛・地球博のプレイベントの際の植林地（2004 年秋植林）

６ エコセミナーの実施

【日時】2012 年9 月13 日11：00～17：00

【場所】ウランバートル市ハンオール地区トーラ村GNC 教育センター

【スタッフ】GNC Japan 代表宮木いっぺい・GNC Japan 事務局矢野明子

GNC Japan ネットワーク部荻原洋子・GNC Japan 教育センター長ツグトサイハン

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

【参加者】滋賀大学ドゥルグーン・東京大学ウンダーク・東北大学ツェンゲル・一橋大学サラ

今回は、今後のフィールドスタディツアー実施を想定して、少人数の大学生を対象にエコセミナーを実施した。参加者の一人サラさんは、モンゴル国立大学エコロジー教育センターの高校を卒業しており、GNC とエコロジー教育センターが共同で作ったキャンパス内の植物園の開園セレモニー（2005 年）に学生として参加していたとのこと。GNC 教育センターに学生が11 時に到着してから、1 時間半は、モデル農場で野菜の収穫体験、農場全体（野菜畑、苗畑、苗床施設、防風林等）の視察を行った。
テーマを決めて話し合い
１）今後実施予定のフィールドスタディツアーの具体的な企画案
２）留学生の目からみたモンゴルと日本の違い
３）将来の夢
４）幸福とは何か

全員が問題意識を持ち、等身大の意見を率直に語っていたことが何よりうれしかった。また、全員が、国のため、みんなのために自分は何ができるのかを真剣に考えていたことに感動し、かつ将来への希望を感じた。

７ モンゴル国立大学エコロジー教育センター訪問

【日時】2012 年9 月14 日9：00～11：00
【場所】ウランバートル市モンゴル国立大学エコロジー教育センター
【スタッフ】GNC Japan 代表宮木いっぺい・GNC Japan 事務局矢野明子
GNC Japan ネットワーク部荻原洋子・GNC Japan 教育センター長ツグトサイハン

2005 年に共同で開園したエコ植物園は、市の予算を使って、さらに充実した公園として整備されている。新任のセンター長、バトチュルンさんと、今後の具体的な協力関係合った。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

１）モンゴル国内に原生している植物を公園内のハウスで育てる、２）エコロジー教育センターで実施している環境教育プログラムを充実させる、３）公園整備の専門的知識を提供する、４）公園内に日本庭園を造成する、５）公園内散策路沿いの植え込み用にニレの苗木を提供する等である。
今後はGNC 教育センター長のツグトサイハンさんがセンター長と密に連絡を取り合いながら、これらのアイディアを実現させてゆくこととなる。なお、エコロジー教育センターの公園担当のナサンさんに公園内を案内してもらった。子供連れの家族や恋人たちの憩いの場となっていたことがうれしかった。

８ 第18 学校訪問

【日時】2012 年9 月14 日11：30～12：30
【場所】ウランバートル市第18 学校
【スタッフ】GNC Japan 代表宮木いっぺい・GNC Japan 事務局矢野明子
GNC Japan ネットワーク部荻原洋子・GNC Japan 教育センター長ツグトサイハン

第18 学校の校内緑化は昨年訪問時に計画した通り大いに進んでいた。女性校長のプレブジャルガルさんに昨年に引き続き面会し、今後の具体的な協力関係について話し合った

１）校内緑化の一環として花壇を増やすための種を提供する、２）日本の中学校、高校と姉妹校になるために協力する、３）エコ教室を開催する等である。今後は教育センター長のツグトサイハンさんが校長と密に連絡を取り合いながら、これらを実ールドスタディツアーの予行練習の意味合いもあった。実際、各プロジェクトの担当者から話を聴き、現場を視察した上で、夕食前後に2時間程度参加者全員で振り返りのディスカッションを毎日行った。その中で、参加学生から多くの貴重な意見、アイディアを聴くことができた。_

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

グローバルフェスタ２０１２

１０月６日（土）～１０月７日（日）開催場所：日比谷公園

１０月７日（日）の午前中は雨が降り、寒い一日でしたが、いろいろと貴重な出会い（幼稚園生、女子高生からおばあちゃんまで）が多く、大変有意義でした。

午後には雨が止み、活気が出てきました。ブースのセッティングの仕方、企画の仕方などでも他団体に学ぶことも多く、さらに各団体の担当者とも活動内容について直接いろいろ話ができました。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

何より、国際協力に関心のある多くの大学生と話をすることができ、今後につながりそうで楽しみです。

エコプロダクツ２０１２

12 月 13 日（木）～15 日（土）、東京ビッグサイト

出展団体数は 711 団体、3 日間の来場者数は 178,501 人でした。ＧＮＣは去年に続き 2 回目の参加で、「森から始まるエコライフ展 2012」というコーナーの中でブースを出展。
森林・植林関係に興味のある方がブースを訪れてくださいました。

中には、GNC オリジナルミニ絵本　「アカマツの赤ちゃんの夢　」（日本語・モンゴル語併記）をモンゴルの知人にプレゼントしたいと、お買い上げくださった方もいました。

今年は初めて、モンゴルから私たちの仲間がエコプロダクツに来場しました。「1 日では回りきれない！」と、まるまる 2 日間見て回っていました。いろいろなブースを回ってたくさんアイデアがあふれ出したようで、今後モンゴルの活動にどう繋がっていくかが楽しみです。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

モンゴリアスタッフ　ツォゴーさん　GNC 森づくり ご支援企業・団体の皆様と面談

12 月 7 日～28 日　日本滞在

この間　　東京ビッグサイトでの　エコプロダクツ 2012 で数々の最新情報収集　20 年余り前　農業研修の同行通訳として半年ほど滞在した青森県車力村（現在のつがる市）の訪問　モンゴルではなかなか手に入らない情報誌　専門書など 20 冊以上購入などと　3 週間があっという間に過ぎていきました

また　長年　GNC 森づくりにご支援いただいている企業　団体の皆様にも　年の瀬のお忙しい中　ツォゴーさんとの面談のお時間を割いて頂き　2012 年森づくりのご報告とモンゴルの現況などをご説明させていただきました

ＳＯＴＯ禅インタ-ナショナルの皆様　（12/22　市ヶ谷　宮木研究室にて）
（2013 年のご寄付を頂きました）

トライウォール株式会社の皆様　（12/25　表参道　ウイルライフ株式会社オフィスにて）

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

株式会社ＫＳＧインターナショナルの皆様　（12/25　市ヶ谷　宮木研究室にて）

2012年9月8日から9月15日までGNCモンゴルエコツアーを実施致しました。
参加された学生の感想文をご紹介します。

木村奈津子（一橋大学大学院）
エコツアーに参加して：つながりを発想する力を育てること
私は現在、ユキヒョウ保護運動の動向の調査をするため１年間モンゴルに滞在しています。ユキヒョウの保護運動とGNC の活動とは一見何の接点もないようですが、色々なご縁が重なり、今回のエコツアーに参加させて頂くことになりました。接点がないといっても、その両者の根底には自然環境への配慮があります。短い時間でしたがGNC で活動する人々と出会い、その活動を垣間見ることで、モンゴルで環境問題に取り組むとはどういうことなのか、わずかですが自分なりに考えることができたように思います。
最も印象的だったのは、大きく成長したアカマツに松ぼっくりがついているのを見つけた時の皆さんの喜びでした。植林した木がすくすくと伸び、そしてその木が種をつけ、森林の再生へとつながる。自分の行為・努力の結果が直接「目に見える」形で実るわけです。一方、動物、特にその姿を見ることが極めて難しいとされるユキヒョウの場合、狩猟を禁じ、保護区を整備し、地元の人々への訴えかけると様々な保護策を講じたとしても、「目に見えて」その保護の効果がわかることはありません。
環境問題への取り組みにおけるこの「目に見える」結果は、人々のモチベーションになるだけでなく、もう一つ、重要な意味を持っていると思います。自らの行為や努力の結果が目に見えてわかること、それはつながりを理解することです。温暖化にCO2 削減、ゴミ問題、森林破壊に植林、野生動物保護と、環境をめぐる問題や取り組みには多種多様なものがあります。そしてそのどれにおいても、「自分がその問題に関わっている」という感

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

覚を持つことの欠如、つまり「自分には関係ない」という姿勢が、問題を大きくしたり、あるいは問題解決への取り組みを難しくしているのだと考えられます。例えばエアコンの設定温度を自分一人が下げた（上げた）ところで地球温暖化などという大きな話には関係ないだろう、そんな姿勢です。ただこの姿勢は仕方がないとも思います。なぜなら多くの環境問題は、自分の行為とのつながりが見出しにくいものだからです。
だからこそ、植林のように自分の行為・努力の結果が見えやすい活動を行うことで、「自分は関係がない」という考え方ではなく、様々な物事のつながり、行為の連関を想像する力が養われるのではないか、と思うのです。GNC は人と人とのつながりを大事にする組織です。GNC が活動を進め、人と人とがつながり、そして「自分には関係がない」という立場だった人が、目に見えない行為の結果、物事のつながりまで発想できるようになる、そしてそういう人が増えていく。それが結果として環境意識を高めるということにもつながっていくのではないでしょうか。
モンゴルは今、経済成長と広がる格差、鉱山開発に砂漠化・大気汚染などの環境問題と、社会全体が大きく揺れ動いています。貧困層とされる人も多く、自然環境よりも目の前の自分の生活、という状況に置かれている人がたくさんいます。また鉱山開発が様々な弊害をもたらしていたとしても、自分の土地ではないのなら関係ないという人も同じようにたくさんいます。それでも、若い人たちの環境への意識は変わってきたという声も聞こえてきます。木を植え、それが自分たちの努力によって森になる。それに子どもや若い人が関わっていくことで、つながりを想像する力が養われ、その他の多くの問題へも当たり前のこととして取り組んでいく、そんな社会をいつか実現させることが可能かもしれません。
そのような可能性を含んだGNC の活動に私自身もまた関わり、協力していきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

トゥギー（一橋大学大学院）
まず、このエコツアーに参加する機会を与えて頂いたGNC Japan やツアー中に色々とお世話になったGNC モンゴルの関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。
今回、実際植林地や苗畑、モデル農場等の視察、GNC より提供された苗木を育てている住民の方々のお宅の訪問、GNC モンゴルの担当者より実際に活動を続ける上でのエピソードや苦労話、またこれからの展望を聞く等、とても充実した時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。
機械や野菜を作ることが大好きというモデル農場のツォゴーさんは、寒いモンゴルの気候を考え、ニレの木で防風林を植えたり、時間と労力を省くため種まきネットを手作りしたり、灌漑システムを導入したりと、大規模の農地であっても一人で難なく農業をやって行くために色々な工夫をしていることが印象的でした。自分が今まで蓄積してきた知識・経

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

験を子供たちに教えてあげたいと目を輝かせながら話すツォゴーさんと、モデル農場にある研修センターを人づくり事業の拠点として活用することを計画中のGNC の共通の夢はきっと形になって実現する日は近いのではないかと思います。
苗畑の視察を終えて、他にも多数の苗木会社も増えており、苗畑担当のゾリゴーさんは農業大学卒ということもあり、質のいい苗木で勝負して売り上げを伸ばしたいと強い意志とやる気を見せていました。
また、バヤンチャンドマニソムの道路沿いに作った公園ですが、地元が気に入ってくれたようで地元の予算でその隣に同じような公園を作るための工事を始めていたことを見て、GNC の皆様の思いがちゃんと届いんたんだなと思うとうれしくなりました。
地方最後の日は、セレンゲ県トジンアルスの植林地の視察でした。森林火災の凄まじさを物語る木々の黒い焼け跡はまだ残っていたが、周りには2 メートルから3 メートルにも及ぶ高い木々がずらりと並んでいました。2004 年に初めてGNC が植林をしたところでは松ぼっくりができている木を見つけたり、2010 年の植えた小さい木は力強く大きく成長しているのを見て、今まで皆様が10 年以上も続けて来た活動、努力に対して、頭が下がる思いでいっぱいでした。
木を植え続けることで、自然の大切さを人々に伝えて行きたいというGNC の理念は素晴らしいことです。モンゴルでは近年鉱山開発と経済発展を優先的に進められているが、自然保全を訴える声も少なくありません。せっかく作った公園が取り壊されそうになったが、幸い今はそこがまだ市の中で数少ない公園の1 つとして残っており、また市の予算で拡大・整備されることになったという話を聞いて何だか救われた気持ちになりました。公園の完成まで3, 4 年もかかったということでしたが、ものを壊すのはあっという間で、それを元に戻すにはそれの何倍の期間と労力が必要になります。後で後悔しないために壊さないで済む方法はないか常に考えて行くことが大事だなと改めて思いました。

スミヤ ドゥルグーン （滋賀大学）

私の初めて植えた孫さん
ある日、私は歩いていました。小さな木を見て踏んで何も思わずに行ってしまいました。踏まれて残された小さな木が「貴方のために生きているのに何でひどいことするの」と泣いて残りました。この奴は私に関係ないだろう、私のために何もやってないでしょうと思って遊びに行きました。あの小さな木が泣いて、泣いて、泣き続けて渇いてなくなりました。
あの時から何年間経ちました。ある日、ＧＮＣの皆さんと木を植え、巣立てる立派な仕事に付き合う機会ができました。植林について何も知らない私はＧＮＣの皆さんと旅に出ました。「これは木です、それはメープルです、こうやって植えます、木とは少なくても４,

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

５年間経って私たちのようになりますので生き残るため精一杯頑張っています、木がなければ人間が生きていられません、大事な空気を綺麗にしてくれてますよ、」と教えてもらいました。
ＧＮＣの皆さんの植えた木が種出来たことを発見しました。その時、皆の目に涙がこぼれそうに「孫が出来ましたよ、私たちの植えた木が種できましたよ」と言っていました。一生忘れられない幸せなことでした。
帰って後、子供のとき踏んだ子供の木を思い出しました。なんて酷いことしたかと心の中で後悔していました。これから木を大事にして生きると自ら約束しました。そのような可能性を含んだGNC の活動に私自身もまた関わり、協力していきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ウンダーク（東京大学 ）
ＧＮＣの2012 年度のモンゴルでの活動に参加できて非常に良かったと思います。
セレンゲ県植林地訪問とバヤンチャンドマン村視察では実際に農所と植林に接してみて、自然と環境による知識も伸びました。県庁や県民との協力、火災問題、労働力、苗木のマーケット、政府へのアプローチなどお話をする都度にこれから考えていくべき私にとって新しい事に気が付いた。
ＧＮＣJapan の皆様に加えツォゴさんやジャムスランさんなど立派な人たちに出会えたことも嬉しく思います。特に農業の仕事をしながら、プログラムを書いたりして技術的に新しい開発を求めるツォゴさんを見て‘工人と言うのはこんなもんですね‘と思いました。これから工学を勉強するわたしにとってロールモデルの一つとなりました。
これからはＧＮＣの日本での活動にもモンゴルでの活動にも参加して自分のできる範囲で協力していきたいと思います。

ツェンゲル（東北大学 ）
このたび、エコツアーに参加させていただきました。
YAMOH を通じて、GNC のこと初めて聞きました。
普段立ち触ることのできない自然の大切さ、モンゴル母国の美しさを改めて実感しました。
モンゴルでのモデル農場は興味深いものでした。普通農場見学することができないので、モンゴルの天候にあった名前も区別できない色んな植物実際見てよかったです。
セレンゲ県で植えた松の木が森になっていて、長年の努力の成果が見えていました。
焼いて何もなくなったところがGNC のみんなさんのおかげで、森になったことモンゴル人として本当に感謝しています。ありがとうございました

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.